

2014 年 11 月 18 日

政策コメンテーター委員会  
会長 伊藤 元重 様

政策コメンテーター委員会  
委員 寺田 千代乃

第 3 回政策コメンテーター委員会に欠席するため、下記の 2 点について書面にて意見を提出させていただきます。

## 記

テーマ 2 : 地方創生・地域活性化について  
～地方創生・地域活性化に向けての基本姿勢等について～

安倍内閣の地方創生という方針については大賛成です。是非、地方への新しいひとの流れをつくる事で、地方創生を実現して欲しいと思います。

このような動きの中で、常々感じているのが、地方創生の主役、主体は誰かという事です。創生本部決定の基本方針の中でも、基本姿勢について「地方の自主的な取組を基本とし、国はこれを支援する」と明記されているように、本来地方の発展のためには、国が地方のために何かしてくれるという考え方が先にあるのではなく、地方自らが考え、具体的に実行していくという姿勢が先にあるべきだと思います。そして、それらを実行していく上で、足りないものについて国が予算で補填する、あるいは実行したいけれども規制があって実現できないものについて、国が規制緩和を行う等というような姿勢でなければ成功しないと思います。

しかしながら、このところの地方創生の議論についての報道等を見るにつけ、地方創生の名のもとに、国は、「自分達が、地方のために人やお金をだしてあげる」、一方、地方では「国が地方のために何かしてくれるのを待っている」といった雰囲気を感じて仕方がありません。

既に、一部の地方（地域）においては、志と意識高くこの課題に取り組み、観光集客、商店街の活性化、地元産業の振興、教育基盤の整備等の地方創生の課題と言われている様々な分野で、地域創生の事例を示されています。例えば、東京への人口流入の大きな要因の一つされている大学進学という課題において、地方の大学教育の弱体化や学生減少が議論されていますが、秋田にある国際教養大学では、特徴のある教育方針を実施する事で、地元学生の比率が 14%に過ぎず、全国から優秀な学生を秋田に集め、就職内定率も 100%と非常に高い評価を受けていると聞いています。このような事例だけでなく、地方自らが

考え、動く事によって、地方の創生に小さいながらも実績をあげている数多くの事例があると思います。

今回の安倍内閣の地方創生の流れを、より大きな流れにして、国の有り方が変わっていく実績に結び付けるためにも、地方は地方でまず考え、行動するという意識が大切であり、国は、その支援をするという基本姿勢を忘れずに取り組んで行く事が大切であると考えます。

また、最近、石破大臣が、国の機関の地方分散について述べられていましたが、地方創生に取り組む姿勢を目に見える形で現わす方策として非常に良い方法だと考えます。これについても、是非、実現して欲しいと思います。

### テーマ3：その他

#### ～保育事業者から見た消費税増税について～

今回の質問に直接関係するものではありませんが、自社の事業展開の中で保育所運営事業を行っている立場から、今回の消費税増税議論について現在懸念している問題について意見を述べさせていただきます。

ご存知のとおり、今回の消費税率引き上げによる税収増については、社会保障の充実に当てる事となっています。その一環として、自公民3党合意を踏まえ、子ども・子育て関連3法が成立しました。この3法は、税率引き上げにより確保する財源を基に、長年議論されて来た幼児教育、保育制度の戦後初めてといわれる抜本的な改革（以下新制度という）を行うものであり、10%までの税率引き上げを前提に、平成27年度4月から施行予定になっています。

現在、関係省庁ならびに全国の全ての自治体で、新制度への移行を前提として、就学前の児童の全ての保護者に対して、新制度に基づく保育の必要認定を行う等膨大な事務手続きが既に進められております。また、保育事業者においても、緊急保育確保事業に伴う保育士の待遇改善や、新制度への移行を前提とした保育所整備等を進めてきているところであります。このような状況の中で、仮に消費税の10%への引き上げが延期され、それに伴い、来年4月からの新制度施行が延期される事になると、各自治体、保育事業者へ非常に大きな混乱がもたらされ、その結果、保護者にも大きな影響が出る事は明白です。

新制度実施は、安倍内閣が掲げられる「女性が輝く社会の実現」のための第一歩です。消費増税の判断に際して、景気動向を勘案する事は当然の事ながら、その観点だけではなく、その財源を予定に進めている、社会保障制度改革の一環である新制度へのスムーズな移行が、その遅れにより、女性の社会参加へも影響がでるのではないかという点についても勘案するべきであるという事を意見として述べさせていただきたいと思えます。

以上